

「鳥取発の医療機器開発を 米子でフォーラム」

(平成27年3月25日付日本海新聞)

鳥取発の医療 機器開発を

米子でフォーラム

とっとり医療福祉機器フォーラム(鳥取県、鳥取大、県産業振興機構主催)が24日、米子市内で開かれた。産学官連携による鳥取発の医療機器開発に向け、専門家が課題などを議論した。

パネル討議では、鳥取大付属病院の北野博也院長をコーディネーターに同病院が中心となって取り組む「とっとり医療福祉機器バレー」の実現について話し合った。

九州大の大平猛教授は医療機器開発について「大企業の開発部でも勉強が足りない」と指摘。京都大の田畑泰彦教授が「工学と医学のどちらも分かる人を育成しないとだめ。実践してもらうことが大切」と人材育成の重要性を訴えた。

さらに、三菱総合研究所の山田栄子主席研

究員は「違う分野の人を入れてみるなどして、一人のドクターに



鳥取発の医療福祉機器開発について話し合ったパネルディスカッション。24日、米子市久米町の米子全日空ホテル

引きずられないようにする」とアドバイス。日本医工ものづくりコンモンスの柏野聡彦理事は「アイデアを出した先生へのフィードバックがしっかりしていないと、臨床現場がモチベーションを持ってやることは難しい」と課題を提示した。

県商工労働部の岡村整諮部長は県内の産業集積の活用や県内外の企業と連携できる仕組みづくりへの熱意を示し、「鳥取発のイノベーション」を指摘した。

フォーラムには約100人が参加し、講演も行われた。